

感じて動く

— 鑑賞の活動化 —

感じて動く | もくじ

— 鑑賞の活動化 —

●感じて動くとは？

鑑賞の活動化

大泉義一 1~3

●実践事例

小学校 低学年	【①相互・自己鑑賞】	おもしろビルディング	4~5
	【②美術作品の鑑賞】	アートカードでかくれんぼ	6~7
小学校 中学年	【③表現から鑑賞】	絵の具でマイ・スペシャル・テクニク	8~9
	【④美術作品の鑑賞】	これってなーに	10~11
	【⑤美術作品の鑑賞】	ミロ★イン・ワンダーランド ~絵の中にとびこんで、ふしぎな世界のよさや面白さを感じ取ろう~	12~13
小学校 高学年	【⑥相互鑑賞】	ギャラリートークをしよう	14~15
	【⑦美術作品の鑑賞】	その人の名は○○○。 ~鑑賞の活動を通して、作品から感じたことを伝え合って楽しもう~	16~17
	【⑧美術作品の鑑賞】	アートレポーターになって	18~19
	【⑨生活の鑑賞】	学校の中、○○みつけた!!パシャ!!	20~21
中学校 1学年	【⑩表現】	四角い風景からはじまる物語	22~23
	【⑪美術作品の鑑賞】	作品に棲む生物たち ~鑑賞ヒエロニムス・ボス「快樂の園」「最後の審判」より~	24~25
中学校 2・3学年	【⑫表現から鑑賞】	愉しむ鑑賞	26~27

●美術館と学校の連携

東京都美術館

鑑賞ジャンプ力をどうひきだすか

稲庭彩和子 28~29

川崎市立岡本太郎美術館

美術館と鑑賞活動

大高 修 30~31

●おわりに

感じて動く 鑑賞

横浜鑑賞研究会

32

鑑賞の活動化

横浜国立大学 大泉義一

1. 学習指導要領の改訂と鑑賞

平成20年1月に中央教育審議会の答申で示された小学校図画工作科の改善の基本方針のうち、特に鑑賞に関する要点は、次の事項とされています。

- ・形や色などによるコミュニケーションを通して、生活を美しく豊かにする造形や美術の働きを実感させるような指導の重視
- ・よさや美しさを鑑賞する喜びを味わうようにするとともに、感じ取る力や思考する力を一層豊かに育てるために、自分の思いを語り合ったり、自分の価値意識をもって批評し合ったりするなどの鑑賞の指導の重視

このように新しい学習指導要領では、鑑賞の学習活動が「生きる力」に直結するものとして位置付けられ、単に作品からよさや美しさを楽しむという意味にとどまらない教育的可能性（例えば、コミュニケーション力・言語力の育成、芸術による地域文化生成の契機等）をもつものとしてとらえられていることがわかります。ここにおいて、鑑賞とは、表現とともにその内容を規定する「領域」であるとともに、子どもが発揮する「能力」でもあることが見直されているといえるでしょう。このことは、中学校・美術においても同様の方向性であることはいうまでもありません。

2. 「領域」か「能力」か？

〈表現と鑑賞〉、この両者の関係について、学習指導要領の解説では次のように述べられています。

「表現と鑑賞はそれぞれに独立して働くものではなく、お互いに働きかけたり、働きかけられたりしながら、一体的に補い合って高まっていく活動である」

このように表現と鑑賞を、学習活動、すなわち子どもが「能力」を発揮する活動としてとらえるならば、それらは本来、一体的・相互作用的に成立しているものなのです。それをあえて二つの「領域」に分類しているのは、学習指導要領が、教師の“ガイドライン”として存在しているからに他なりません。私たちが鑑賞の学習活動について考えるとき、その眼前には「領域」としての鑑賞なのか、「能力」としての鑑賞なのか、という混乱が回避しがたく横たわっています。(図1)しかしながら、子どもにとっての鑑賞を考えるならば、それは「能力」として表現と一体化・融合しているものでありましょう。

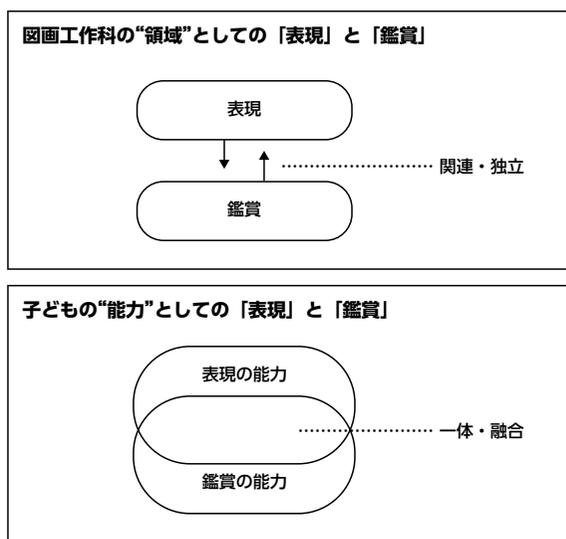


図1 〈表現と鑑賞〉の関係性

3. 鑑賞を「活動」としてとらえてみると？

鑑賞を「能力」としてとらえるならば、その授業化においては、子どもの鑑賞の「活動化」が必要になります。しかも、鑑賞を「領域」として狭くとらえるのではなく、「活動」としてとらえることで、「授業の幅が広がる」、あるいは「育てたい子どもの能力を明確にできる

ことにつながる」のではないのでしょうか。そしてそのことにより、授業を行う教師にとっては、「鑑賞の授業をしやすい」なり、「鑑賞の授業の評価をしやすい」なるのではないかと考えられます。

4. “鑑賞の活動化” …鑑賞の学習活動の構造とカテゴリー

(1) 全体構造…学習活動カテゴリーと評価規準

では、子どもの鑑賞には、どのような「活動」が考えられるのでしょうか？

ここでは、図画工作科・美術科の授業で鑑賞の能力を發揮している子どもの姿を想起しながら整理をしてみましょう。そうすると、図2に示したように、表現と一体化する中で、「A：相互鑑賞」「B：自己鑑賞」「C：表現から鑑賞」「D：鑑賞から表現」「E：美術作品の鑑賞」「F：生活の鑑賞」といったカテゴリーから構造化することができます。さらにそれらの各カテゴリーの学習活動に対応する評価規準は、図2の右端に示したように考えることができます（A：関心・意欲・態度／イ：発想・構想の能力／ウ：創造的な技能／エ：鑑賞の能力）。

(2) 鑑賞の学習活動カテゴリー

① 表現に埋め込まれた鑑賞

子どもは表現を行いながら、常に鑑賞の能力を働かせています。よって、こうした能力の發揮が見られる学習活動のカテゴリーを「表現に埋め込まれた鑑賞」として位置付けることができるでしょう。さらにこのカテゴリーには、次の二つの様態が考えられます。

A：相互鑑賞

表現における学習活動のプロセスには、子ども同士がお互いの表現を味わうといった相互交流が見られます。この交流には、教師が意図的に学習活動として取り上げる場合と子どもたちが自然に行っている場合があります（図3）。これらの活動はいずれも「相互鑑賞」として位置付けることができます。

B：自己鑑賞

子どもは、表現を行う過程においても絶えず鑑賞の能力を働かせています。例えば、彫刻刀で彫るときのサクツとした感触を味わいながら、自分が次に行う表現の方向を見つけたり、木版画で試し刷りをしたものをじっと見つめて、次にどこをどのように彫ればよいかを決めたりしています（図4）。こうした姿からは、鑑賞の能力の發揮が表現を支えていることがわかります。表現の能力には、自ずと鑑賞の能力が内在しているのであり、こうした活動を「自己鑑賞」として位置付けてみました。

② 表現と接続する鑑賞

子どもたちは、鑑賞の学習活動において、表現と同様にイメージを創出し価値付与を行っています。よって美術作品などを鑑賞することから表現へとつなげていくことによって、鑑賞の能力をより一層高めることができるのではないのでしょうか。

C：表現から鑑賞

例えば、好きな絵画作品を選び、それを工作に表現していく過程で鑑賞の能力を高めていく学習活動が考えられます（図5）。

D：鑑賞から表現

また逆に、自分の行ってきた表現活動におけるイメージを美術作品などの鑑賞活動に結び付けていくことも考えられます。

③ 独立した鑑賞

これまで示した学習活動のカテゴリーでは、その学習活動のねらいは表現と結び付くものとして設定されています。それに対して、鑑賞の能力の育成そのもの

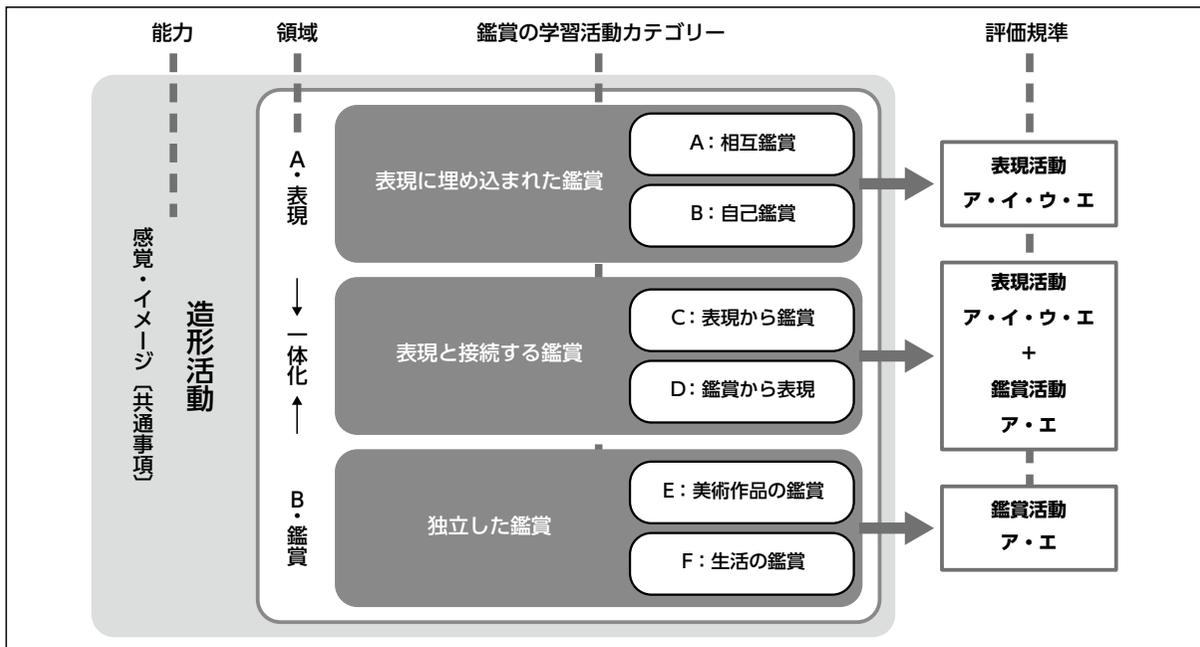


図2 鑑賞の学習活動のカテゴリーと評価規準の構造

らいが設定される学習活動として「独立した鑑賞」があります。このカテゴリーは、その対象によってさらに次の二つに分類できるでしょう。

E：美術作品の鑑賞

この学習活動は、美術作品を対象にした鑑賞を通して、鑑賞の能力を育てようとするものです。例えば、教科書に掲載されている日本の「浮世絵」を鑑賞して、気付いたことを友人と話し合ったり、自分たちの生活の中にある美術作品を探し出して紹介しあったりするような活動が考えられます。ここでは、作品そのものを対象にするだけでなく、製作／制作の過程の鑑賞や、美術館との連携によるアートゲームの実践なども含まれます。

F：生活の鑑賞

子どもにとっては取り囲む環境全てが鑑賞の対象

であり、それらに対して子どもが能動的に働きかけることで、意味や価値を見つけ出すことのできるものです。小学校低学年の子どもには、自分が気に入った形や色の石を集めるなど、「みる・さわる」といった感覚自体が目的化されている行為をよく見かけます。これは、子どもたちが環境に対する感覚を存分に発揮している状態を示しています。小学校高学年の子どもや中学生は、何げない風景の中に存在する、光の当たり方や気候の変化などによってもたらされる面白い“みえかた”に対して強い興味をもちます(図6)。このように、私たちの生きる(くいま-ここ)としての生活において、能動的感覚の発揮が促されるような対象に対する関わりを鑑賞の学習活動として位置付けることができると考えます。



図3 相互鑑賞



図5 鑑賞から表現へ



図4 自己鑑賞



図6 生活の鑑賞

5. そして授業実践へ

本書では、以上のように鑑賞を「活動」してとらえた鑑賞の学習活動カテゴリー「A～F」に沿って、研究会のメンバーが様々な鑑賞の授業を提案しています。それぞれの授業は、読者のみなさんが学校で作成されている図画工作科・美術科の指導計画の中に位置付けやすいように開発されています。また、これらを基にみなさん自

身が目の前の児童・生徒の実態をふまえた題材を開発してみてもよいでしょう。

ぜひ、鑑賞を「活動化」した授業にチャレンジしてみてください。

きっと、いままでとちょっと違った子どもの学びの姿が見えることでしょう！



小学校・第1学年

①相互・自己鑑賞

おもしろビルディング

4時間

⇒ 題材の目標

- 紙でつくったビルを、楽しいビルになるように考えて形を変える。また、友だちや自分の作品の面白さや楽しさを感じる。

題材の評価規準

ア 造形への関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
<ul style="list-style-type: none"> ○自分独自のビルやみんなで作る町を楽しみながらつくろうとしている。 ○自分や友だちの作品を楽しみながら見ようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○どうしたら楽しいビルや町になるのか、考えたり、自分なりの飾りを思いついたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ビルの折り方や切り方を試しながらつくったり、ビルや町の飾りを工夫したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分や友だちの作品のよさや楽しさを感じている。 ○自分や友だちがつくった作品の面白さや、グループでつくった町の楽しさを味わっている。

〔共通事項〕の内容

折ったり切ったりすることで思い付いた、面白い形のビルをつくること。つくったビルの形や色から次の活動を思い付いたり、友だちのよさをとり入れたりして、自分の作品をつくっていくこと。

準備

児童：のり、はさみ、クレパス、飾りになるもの（折り紙など）

教師：色画用紙、模造紙、鑑賞用のプリント

⇒ 題材の展開

●主な学習活動 ○子どもたちの活動例	□指導上の留意点 □評価の観点
<p>面白いビルをつくろう。</p> <p>●ビルのつくり方を知る。(20分) ○貼るところが、たこの足みたいだね。</p> <p>●面白いと思うビルを考えてつくる。(70分) ○切り込みを入れて窓をつくろう。</p> <p>○ビルの上を切ったら、炎の形みたいだね！</p>	<p>□ビルの基本的なつくり方を伝える。 □ビルづくりを楽しもうとしている。(ア)</p> <p>□自分しか思いつかないような、楽しくて面白いビルに変身させていくことを話す。</p> <p>□発想を広げるきっかけになるよう、一人ひとりが考えた工夫を全体で紹介する。</p>



先につくった作品を見つめ、次の作品を考えてつくる。



次の作品をつくる。

ビルを面白くする工夫を考えたり、自分なりの飾りを思いついたりしている。(イ)

ビルの折り方や切り方、形を考えてつくることで、自分なりに楽しいビルをつくっている。(ウ)

自分や友だちの作品のよさや面白さを感じている。(エ)



自分の作品の面白いところを友だちに話している。

つくりながらの鑑賞活動

子どもは、つくる活動中にときおり手を止めて、自分の作品を見つめたり、近くの友だちの作品を見たりしていました。困ったことを相談したり、面白いと感じたことを話したりしながらつくる姿もありました。鑑賞の時間というような時間を特別に設定するのではなく、活動中にいつでも、自由に友だちの様子を見に行ったり、話しながら楽しくつくったりしてよいとすることで、活動が自然に広がっていきました。

町をつくらう。

●模造紙にビルを貼り付けて町をつくる。(60分)

○緑のビルの近くだから、森を描こう。

○道路を描いて、友だちのビルとつなげよう。

■グループのみんなで考えて、そのグループだけの町をつくるよう話す。

友だちと相談したり、自分で考えたりしながら、自分たちの町をつくらうとしている。(ア)

つくった町を友だちと探検しよう。

●つくった町を探検する。(30分)

○ビルの中をのぞいたら人がいたよ。

○△グループは、道路でビルがつながっているね。

○違う人のビル同士を飾りでくっつけているね。

■各自で探検に出かけ、隠された面白いところを見つけるように伝える。

友だちや自分のビルの面白さを見つけている。町やビルの楽しさを感じている。(イ)



中にエレベーターがあると気付いてのぞいている。



町の様子も見えて楽しんでいる。

できあがってからの鑑賞

生活科で行った学校探検の経験を生かし、つくった町の面白さや秘密、楽しさを町探検するという設定で相互鑑賞を行いました。そのため、多くの子どもが細かいところまで楽しそうによく見ていました。



小学校・第2学年

②美術作品の鑑賞

アートカードで かくれんぼ

1時間

⇒ 題材の目標

- カードゲームを通して美術作品に親しむとともに、美術作品を鑑賞するきっかけをつくる。

題材の評価規準

ア 造形への関心・意欲・態度	エ 鑑賞の能力
○進んで作品を見ようとしている。	○絵について特徴を見つけたり、イメージを広げたりしている。

〔共通事項〕の内容

アートカードの形や色などを自分の感覚でとらえ、それを基に自分のイメージをもつこと。

準備

児童：筆記用具

教師：アートカード（美術作品の複製印刷物〈はがき大〉）、ワークシート

鑑賞対象（アートカード）の準備

近年は、所蔵作品をカード化した鑑賞教材について、販売や貸し出しを行う美術館が増えている。直接、美術館に問い合わせたり、美術館のホームページにアクセスしたりすることで情報を得ることができる。

⇒ 題材の展開

☑ 主な学習活動 ○ 子どもたちの活動例	☐ 指導上の留意点 ☐ 評価の観点
ヒントゲームをしよう。	
<p>☑ 「ヒントゲーム」の説明をさく。(5分)</p> <p>☑ 4人前後のグループで机を合わせる。8枚程度のアートカードを机に広げ、教師が出すいくつかのヒントをもとに、友だちと話し合いながらアートカードを選ぶ。(10分)</p>	<p>☑ アートカードを見せ、簡明にゲームの説明をする。</p> <p>☑ アートカードを選べたグループをほめ、子どもたちがグループで対話しながら楽しくゲームに参加できるよう、雰囲気をつくる。</p> <p>☑ アートカードをたくさん選べたグループを評価する。</p>



ヒントをもとに、一つひとつのカードをよく見て、選びやすくするために、最初は8枚程度がふさわしいだろう。子どもたちがゲームに慣れてくれば、さらに増やすことも可能である。

進んでゲームに参加している。(ア)

絵について見つけたことや感じたことを話している。(エ)

展開の工夫

ヒントゲームでは、ヒントの内容や提示する順序で、子どもたちの鑑賞の意欲や対話を促すことが大切です。ヒントの内容は初発の印象に始まり、形や色の特徴やそれらから広がるイメージについて、抽象的なものからより具体的なものまで、一つひとつ間をあけて提示することで、子どもたちが少しずつ作品を取捨選択できるようにします。そして、ヒントの数も三つ程度に絞ることで、子どもたちの見方や感じ方に委ね、対話を促すことができます。また、鑑賞は正答を求めるものではありません。教師と子どもたちが選んだ作品が異なっても、子どもたちの見方や感じ方に共感し、教師自身も変容していく姿を示すことで、子どもたちの自信につなげていきましょう。

アートカードでかくれんぼをしよう。

● 「アートカードでかくれんぼ」の説明をきく。(5分)

● 教師が提示した作品について、グループで話し合い、連想できる校内の場所から教師があらかじめ隠していたアートカードを探す。(15分)



○ 水を感じる作品：プール、水道

● アートカードを何枚見つけることができたか、発表する。(5分)

● お気に入りの作品についてワークシートにまとめる。(5分)

アートカードを見せ、簡明にゲームの説明をする。

子どもたちの様子を伺いながら、対話を促し、作品についてのイメージが広がるようにする。

進んでアートカードを探している。(ア)

絵について見つけたことや感じたことを話している。(エ)

展開の工夫

ゲームに慣れてくれば、子どもたち自身がヒントを出したり、アートカードを校内に隠してお互いのグループのアートカードを探したりできるでしょう。そうすることで、子どもたちがより意欲的に活動する姿が期待できます。

カードをたくさん見つけたグループを評価する。

絵について特徴をとらえたり、イメージを広げたりしている。(エ)

展開の工夫

アートカードを使用したゲームは、ゲーム的な活動を楽しみながら美術に親しむことにあります。地域の美術館など、子どもたちにとって身近な美術館の作品を扱った場合は、アートカードの実物作品が、美術館に所蔵、または展示されていることを知らせ、美術館訪問への意欲を促していきましょう。

また、アートゲームを実践するにあたっては、ゲームを楽しむことを目的にするのではなく、ゲームを通して「どれだけ作品に関心をもつことができたか」、「イメージを広げることができたか」など、子どもたちがどのように変わったかを把握することが大切です。活動中の子どもたちの様子とともに、ワークシートの記述からも評価していきましょう。



小学校・第4学年

③表現から鑑賞

絵の具でマイ・スペシャル テクニク 4時間

⇒ 題材の目標

- 様々な絵の具の技法を楽しみながら、進んで表したり、見たりすることを楽しむようにする。
- 友だちとコミュニケーションを図りながら、ゲームを通して様々な作品を見ることを楽しむようにする。

題材の評価規準

	ア 造形への関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
A 表現	○様々な絵の具の技法を楽しみながら、進んで表したり、友だちの表しつつあるものを見たりすることを楽しもうとしている。	○水彩絵の具のいろいろな表現技法を試しながら、その形や色から発想し、表したいことについて考えている。	○水彩絵の具で多様に表現された形や色を生かし、表し方を工夫している。	○自他の表しつつあるものや作品から、表現のよさや面白さを感じ取り、話し合うなどしている。
B 鑑賞	○友だちとのコミュニケーションを図りながら、ゲームを通して様々な作品のよさや楽しさを味わうことを楽しもうとしている。			○カードを鑑賞し、感じたことや思ったことを言葉で表現したり、友だちと意見交換したりするなどして、いろいろな表し方による感じの違いなどをとらえ、よさや面白さを感じ取っている。

〔共通事項〕の内容

- ア 自分の感覚や活動を通して、絵の具の技法から生まれた形や色、組合せなどの様々な感じをとらえる。
- イ カードの形や色の感じ、自分の思いや経験など、様々な手掛かりを基にイメージをもつ。

準備

児童：絵の具セット、ストロー、ビー玉、スポンジ

教師：画用紙、色画用紙、工作用紙、バット、ブラシ、金網、カッター、カッティングマット、カッティング定規、ラミネーター、ラミネートシート

鑑賞対象

- ①表現しようとする画用紙・色画用紙（A5版程度）
- ②表しつつある自他の作品やその行為
- ③表した自他の作品
- ④10cm×10cmの窓枠を通して見る自分の作品
- ⑤ラミネートされた自他の作品（マイ・スペシャル・テクニク・コレクション）



鑑賞対象②

⇨ 題材の展開

● 主な学習活動 ○ 子どもたちの活動例

□ 指導上の留意点 □ 評価の観点

絵の具を使った自分のスペシャルわざ「マイ・スペシャル・テクニック」をつくり出そう。技を見せ合い、みんなの技「アワ・スペシャル・テクニック」にしよう。

● 用紙や試したい技、色の組み合わせなどを選び、思い付くままに工夫しながら表現する。(90分)

- ・ ストローで吹いて(吹き流し)
- ・ 型紙の上からブラシで(スパッタリング) など

○ 途中の作品を見せ合う。

活動途中にも鑑賞活動を

途中の作品を互に見せ合い、自分の技について伝えたり、友だちの技を教してもらったりする「途中の鑑賞会」を開くと、その後の活動への関心や意欲がさらに高まります。

● さらに工夫しながら表現する。

□ 自由に試せるA5版程度の紙を各色用意しておく。

□ 絵の具の様々な表現で表された模様を掲示するなどし、表現方法の例を示しておく。

□ いろいろな表現技法で表された自他の作品を見て、よさや面白さを感じ取っている。(Aエ)

□ 様々な絵の具の表現技法に関心を持ち、進んで試しながら表そうとしている。(Aア)

□ いろいろな表現技法を試しながら、その形や色から発想し、表したいことについて考えている。(Aイ)

□ 水彩絵の具で多様に表現された形や色を生かし、表し方を工夫している。(Aウ)

工作用紙で10cm×10cmの窓枠をつくり、お気に入りの部分を切り取ってラミネートし、「マイ・スペシャル・テクニック・コレクション」にしよう。

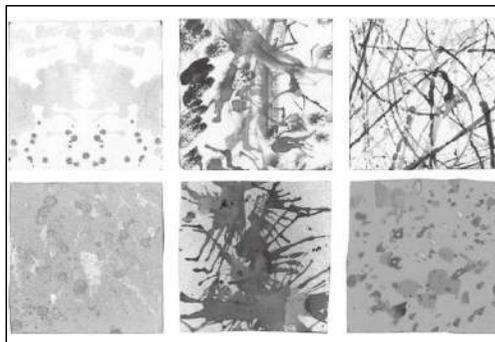
● 切り取った10cm×10cmの作品をラミネート加工し、自分のコレクションをつくる。(45分)



鑑賞対象④

フレームで切り取る鑑賞

お気に入りの部分を枠で選ぶとき、自分の感覚を通して、形や色、組合せなどの様々な感じをとらえ、「これだ」と思う見え方を、枠や作品を回転させるなどしながら探しています。絵をかいたり、写真を撮ったりする表現にもつながります。



鑑賞対象⑤

□ いろいろな表し方のよさや感じの違いなどを味わっている。(Aエ)

コレクションを使って、アートカードゲームを楽しもう。

● グループでゲームを楽しむ。(45分)

- ・ 「キーワードゲーム」(「○○の気分がする作品」「○○さんにプレゼントするとすれば、この作品」など)などで楽しむ。

□ 感じたままに好きなものを選んだり、友だちと意見交換する喜びを味わおうとしたりしている。(Bア)

□ カードを鑑賞し、感じたことや思ったことを言葉で表現したり、友だちと意見交換したりするなどして、いろいろな表し方による感じの違いなどをとらえ、よさや面白さを感じ取っている。(Bエ)



小学校・第4学年

④美術作品の鑑賞

これってなーに

2時間

⇒ 題材の目標

- 美術作品のパズル取り組み、気付いたこと、感じたこと、考えたことなどを言葉にしたり、友だちと話し合ったりして、見ることを楽しむ。

題材の評価規準

ア 造形への関心・意欲・態度	エ 鑑賞の能力
○美術作品の形や色、主題のよさ、面白さに関心を示し、感じ取り味わうことを楽しもうとしている。	○美術作品のパズルゲームを通して鑑賞し、そのよさや美しさを感じ取っている。 ○美術作品を鑑賞し、感じたことや思ったことを言葉で表したり、友だちと意見交流したりするなどして、表し方、表現の意図や特徴などをとらえようとしている。

〔共通事項〕の内容

自分の感覚やアートパズルゲームの活動を通して、美術作品の表現の特徴やそのよさや美しさをとらえ、描かれている形や色などの造形的な特徴を基に自分のイメージをもつ。

準備

児童：筆記用具

教師：ジュゼッペ・アルチンボルド「連作四季 春・夏・秋・冬」を20ピースほどのパズルにしたもの、ジュゼッペ・アルチンボルド「連作四季 春・夏・秋・冬」掲示用（A3程度）、学習カード

環境設定／鑑賞対象の準備・提示の方法／視覚教材教具など



- 各グループのパズルが完成後、掲示用のパネルを黒板に掲示する。



- 一つひとつの作品が印刷されたワークシートに自分で考えた題名とその根拠を書き込んでいく。



- 作品「四季春夏秋冬」を20ピース程のパズルにする。各グループ(4～5人)が4作品のパズルに取り組み始めるようにする。

絵にかくされた秘密を解き、絵画作品の見方・感じ方を深めよう！

🎯 アートパズルに出会う。(10分)

これとこれがつながって…



🎯 アートパズルを完成させる。(35分)

○ 形、色、など細部に着目しながらつなぎ合わせる。



🎯 できあがったパズルを見て感じたことをまとめ、発表し合う。(35分)

○ グループで伝え合ったあと、学級全体で交流する。

🎯 鑑賞カードに活動の振り返りをして、感想を交流する。(10分)

📝 グループでパズルに取り組む際には、「夏」から一つずつ順番に取り組ませるとよい。「顔」が描かれているということが次第にわかってくる。

📝 細かい部分までよく見てつなぎ合わせることを助言する。

□ ピースの色や形に着目し、つなぎ合わせながら絵を完成させることを楽しもうとしている。(ア)

出合いの工夫

一人ひとりにアートパズルを1ピースずつ配り、「これはどんな絵の一部分かな」と想像させることで、パズルを組み合わせて全体像を表すことへの興味・関心につなげます。

□ 完成してできた絵を見て、感じたことを話したり、話し合ったりしながら、形や色、表し方などの感じの違いをとらえ、よさや面白さを感じ取っている。(エ)

📝 ワークシートを使い、絵から感じた印象を題名とともにまとめられるようにする。

📝 活動の様子を見て、対話し、支援する。

📝 発表を聞き合い、思いを共有できるようにする。いろいろな見方・感じ方があることを知り、鑑賞することの面白さを感じられるようにする。

□ 感じたことや思ったことを話したり友だちと話し合ったりするなどして、作品のよさや面白さを感じ取っている。(エ)



(アルチンボルドの作品はWPS提供)



小学校・第4学年

⑤美術作品の鑑賞

ミロ★イン・ワンダーランド

～絵の中にとびこんで、ふしぎな世界のよさや面白さを感じ取ろう～

2時間

➡ 題材の目標

- ジョアン・ミロの作品に表現された形、色、それらの組み合わせなどからよさや面白さを感じ取り、友だちと話し合ったり、身体表現したりする。

題材の評価規準

ア 造形への関心・意欲・態度	エ 鑑賞の能力
○ミロの作品の不思議な世界を自分なりに味わうとともに、友だちと話し合ったり、感じたことを表現したりすることを楽しもうとしている。	○ミロの作品に表されている形や色、組み合わせなどから自分なりに感じ取ったよさや面白さを言葉や体で表したり、友だちと話し合ったりするなどして感じ方の違いに気付いている。

〔共通事項〕の内容

- ア ミロの作品の形や色、組み合わせの感じの面白さなどを感じ取る。
- イ 形や色などの感じを基に、自分なりのイメージで作品が表している世界や物語を想像する。

準備

- 児童：筆記用具、バインダー、のり
- 教師：鑑賞作品の図版を拡大したものと画像数点、ワークシート、図版を印刷したものの数枚ずつ

環境設定／鑑賞対象の準備・提示の方法／視覚教材教具など

- 学習の場としては、机や椅子のない広めの教室などがよい（暗幕や、作品にライトが当てられるようなステージなどがあると、鑑賞作品との出合いを演出できる）。
- ミロの作品から数点を選び、拡大カラーコピーをする。額縁に入れてイーゼルに置いて鑑賞できるようにすると、子どもたちが感じたことなどを交流しやすい。
- 第2時では、鑑賞作品の画像をスクリーンに投影する。スクリーンの裏から反転画像を投影すると、作品の中に飛び込んだという設定のためにスクリーンの前に子どもたちが立っても影ができない。

➡ 題材の展開

● 主な学習活動 ○ 子どもたちの活動例	□ 指導上の留意点 □ 評価の観点
<ul style="list-style-type: none"> ●ミロの作品と出合い、不思議な絵の中に、何が描いてあるか、見つけたものを話し合う。（5分） ○人・目 ○鼻に角がある動物みたいなのがいる。 	 <ul style="list-style-type: none"> □集中して作品を見て、見立てたり発表したりして、見ることを楽しんでいる。（ア）

○犬が後ろを向いている。

○題名は「動物たちのカーニバル」。カラフルで楽しそうだし、いろいろな動物がいる。

□児童の想像が広がるように、「犬は何をしているのかな?」「どこからそう思ったの?」などと問い返す。また、形や色、組み合わせなどによって受ける感じが違うことを部分的に例を挙げ、その感じや作品全体の感じから想像していくことを指導する。

絵の中に入って、ポーズをしてみよう。

●作品の中に見つけたものをグループの中で紹介し合い、それぞれどんなポーズにするか見せ合う。(15分)



□ポーズは、作品の中に見立てたもののポーズ、あるいは作品全体から受けるポーズでもよいことを伝える。

□身体表現に戸惑う様子を見せる子どもには、グループの中で、友だちのまねができるよう支援する。

●交流する。(20分)



□何のポーズか質問が出たら説明するようにする。

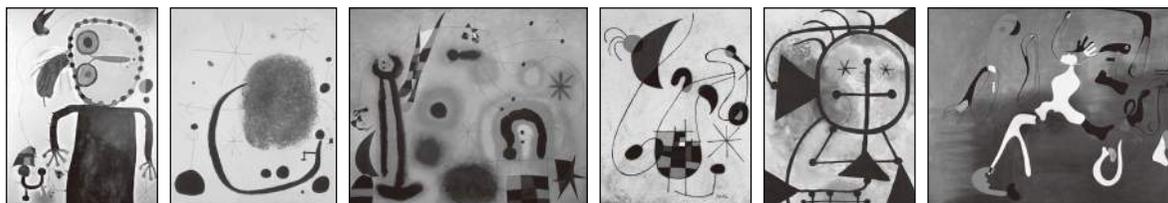
□感じ方の違いがあっても、どれもよいことを伝える。

□ミロについて説明を加え、次時の活動と作品を紹介する。

●感想を発表する。(5分)

□時間をあける(数日間、次時に見る作品を教室の付近に展示しておく)。

●ミロの作品と出会う。(5分)



絵の中のふしぎな形や色、全体の感じなどから、ふしぎな世界が表している物語を想像して、絵の一部になったようなポーズをとって、せりふや物語の題名を紹介しましょう。

●選んだ作品ごとにグループになり、考えた題名やポーズ、台詞を紹介し合う。(15分)

□ワークシートに選んだ絵のシートを貼り、ポーズや台詞、題名を考える。

□描かれている形や色、組み合わせに着目し、作品全体の感じやイメージから物語を想像して、作品の題名や台詞を考えている。(エ)

●発表する。(20分)



□他のグループの発表を、自分の感じ方と比べながら聞いたり見たりするように伝える。

□自分の身体で、感じたことを表現することを楽しみ、絵の世界に入りこもうとしている。(エ)

●学習を振り返る。(5分)

ギャラリートークを しよう

1時間

⇒ 題材の目標

- 「墨でアート」の友だちの作品の形や色、動きや重なりなど、表し方のよさや美しさに関心をもって感じ取り、味わうことを楽しむようにする。
- 感じたことを伝え合って、お互いの表現意図や特徴をとらえるようにする。

題材の評価規準

ア 造形への関心・意欲・態度	エ 鑑賞の能力
○「墨でアート」の作品のよさや美しさを感じ取ることを楽しもうとしている。	○活動したことや表現したものの形や色、表し方などから、表現の意図や特徴をとらえたり、よさや美しさを感じ取ったりして、さらに感じ方を深めている。

〔共通事項〕の内容

自分の感覚を働かせながら、友だちの絵をみつめ、感じたことを基に自分なりのイメージをもつ。

準備

児童：学習カード、筆記用具

教師：ギャラリーの設置、学習カード、掲示物など

環境設定／鑑賞対象の準備・提示の方法／視覚教材教具など

- 譜面台に作品を置く。
- 全体で活動するところと、グループごとに活動するところを考慮して、場を設定する。

⇒ 題材の展開

● 主な学習活動 ○ 子どもたちの活動例	□ 指導上の留意点 □ 評価の観点
<p>○○小の友だちの作品のよさや美しさを感じ取ろう。感じ取ったことを伝え合って、一人ひとりの感じ方のよさや違いを学ぼう。</p>	
<p>●活動の流れを知る。(5分)</p> <p>○どのような作品があるのか知るために、全体を見てまわる。</p> <p>●友だちの作品をよくみつめ、表したかったことを考えカードに書く。(5分)</p> <p>○作品の特徴を見つけた。</p> <p>○友だちが表したかった季節を考えた。</p>	<p>□ 掲示物を準備し、流れがわかるようにする。</p> <p>□ 自分なりに作品と対話し、作品のよさや美しさを感じ取ろうとしている。(ア)</p> <p>□ 子どもと対話しながら、思いをつかむようにする。</p>

●グループで話し合う。(10分)

- この人の表し方は、墨の濃淡を使って違いを出そうとしている。
- 筆の太さを変えて、激しい感じを出そうとしたのだろうか。

●みんなに紹介したい作品を選ぶ。(10分)

- 色の重なりや形の面白さの出ている作品を選ぼう。
- 紹介したい作品のよさや美しさ、表現の意図などをまとめておこう。

●自分や友だちの表現のよさを味わう。(10分)

- 班で選んだ作品は、こんなところがステキだ。
- 自分の印象と友だちの考えの違いに気付いた。



●最後にもう一度全体の作品を見て味わう。(5分)

作品の交流を行うにあたって…

- ・同じ中学校ブロックの6年生と作品を交換して鑑賞するために、相手校の担任と手順を話し合っておきます。
- ・作品は「季節」というテーマで表現することを条件にし、お互いの意図がわかりやすいようにしておきます。
- ・鑑賞カードは同じものを使い、相手に伝え合う内容を丁寧に書くよう指導します。
- ・最後に交流した学校と鑑賞カードを交換し合うことで、自分が活動したことを心に刻むようにします。



- 「墨でアート」の作品の形や色、表し方などからその作品の特徴や意図をとらえようとしている。(エ)

□作品のよさを表現するために、班で話し合うよう助言する。

作品に集中

○小の友だちの作品には、番号だけを付け、名前や題名を付けなくていいことで、作品だけに集中して考えたり、イメージしたりすることができます。



□再度見ることで発見することもあるかと思うので、子どもの話を聞きながら、全体の作品を味わうようにする。

授業を展開するにあたって

- 国語の「鳥獣戯画を読む」の学習の中で、作品を味わい、自分なりのイメージを文章化することを先におきます。
- クラスの友だちの作品のよさや美しさを味わい、鑑賞する時間をとっておきます。



小学校・第5学年

⑦美術作品の鑑賞

その人の名は○○○。

～鑑賞の活動を通して、作品から感じたことを伝え合って楽しもう～

1時間

⇒ 題材の目標

- パブロ・ピカソの作品と出会い、表現の特徴を感じ取ったり、伝え合ったりする活動を楽しむようにする。
- ピカソの作品と出会い、自分なりの見方や感じ方でその特徴を感じ取るようにする。

題材の評価規準

ア 造形への関心・意欲・態度	エ 鑑賞の能力
○ピカソの作品と出会い、その表現の特徴を感じ取ったり、その特徴を伝え合ったりする活動を楽しんでいる。	○ピカソの作品と出会い、自分なりの見方や感じ方でその特徴を感じ取っている。

〔共通事項〕の内容

- ア 自分の感覚や活動を通して、形や色、動きや興行きなどの造形的な特徴をとらえること。
- イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。

準備

児童：筆記用具、下敷き

教師：ピカソの作品「花飾りをつけたマヤとおもちゃの船」「初聖体拝領」、ワークシート、覆い布、大型テレビ、パソコン

環境設定／鑑賞対象の準備・提示の方法／視覚教材教具など

- 子どもたちの鑑賞への興味・関心を大いに導き出すために、後期のピカソらしい立体派の作品「花飾りをつけたマヤとおもちゃの船」との出会いを大いに楽しむ。
- その後、十代の作品「初聖体拝領」を鑑賞することで、その画風の違いがより明確に味わえるようにする。
- 作品は額に入れて布で覆っておき、子どもたちの「観てみたいな」という思いを高めていきたい。
- 作風の変化から、自分なりに感じた作者の思いや願いにより迫れるように、視聴覚機器を利用するなどして展開を工夫する。
- 作品を身近に感じることができるよう、教室中央に集まり、様々な角度で作品を観ることができるようにする。
- 本授業に入る前にアートカードセットを使ったゲームを経験させたい。アートカードゲームを通して、作品に対して視点を明らかにして鑑賞できるようにし、自分の目の前にある作品の情報を丁寧に読み取り、言葉で表現できるようにさせたい。

2枚の絵を鑑賞し感じたことを伝え合おう。

🎯 2枚の絵を鑑賞する。(25分)

- ・教室の中央に集まり、鑑賞の準備をする。
- 「花飾りをつけたマヤとおもちゃの船」を鑑賞し、感じたことを伝え合う。
 - ・ 「手みたいなのがあるよ！」
 - ・ 「色使いが暖かい感じがするね」
 - ・ 「これはひょっとしてピカソじゃない？」
- 「初聖体拝領」を鑑賞し特徴を感じ取る。
 - ・ 「すごくリアルだなあ」
 - ・ 「なんか、暗い感じがする」
 - ・ 「結婚式かな…」
 - ・ 「いや、お葬式かもよ」
 - ・ 「場所は教会だと思う？」

二つの作品から

同じくピカソの作品だということ、2枚目が若い時の作品だということを知らせ、感じたことを伝え合います。

- ・ 「別の人が描いた作品みたいだ」
- ・ 「なんか、下手になった気がする」
- ・ 「後の方が、子どもの絵みたい」
- ・ 「不思議な感じがするのは後の作品だよ」

なぜ表現を変えていったのだろう。

🎯 作風の変化の訳を考える。(20分)

- ・ ワークシートに考えを書き、自分なりの考えがある程度まとまってから、自分の班で伝え合う。
- ・ 「面白い絵を描きたくなっちゃったのだと思うよ」
- ・ 「あんなに上手だったのに、なんでこんな風になったのかなあ」
- 鑑賞カードに、今日の学習で感じたことや思ったことを書く。

📌 全員での意見交流や、また様々な角度で観ることができるよう、教室中央に座って鑑賞する。

📌 自分なりの感じ方を大切にしていけることを伝え、自分なりの見方、感じ方で観ることの楽しさを味わえるようにする。

📝 ピカソの作品を鑑賞して特徴を感じ取り、言葉で伝え合おうとしている。(エ)

一つ目の鑑賞

ピカソの作品だということを知らせ、じっくりと絵と向き合えたという評価を全体に伝え、一つ目の鑑賞を終わります。

📌 二つの作品を比較して鑑賞できるように提示する。



📌 作風の変化に気付いた見方・感じ方やなぜ変わったのかというつぶやきを大切に展開を図る。

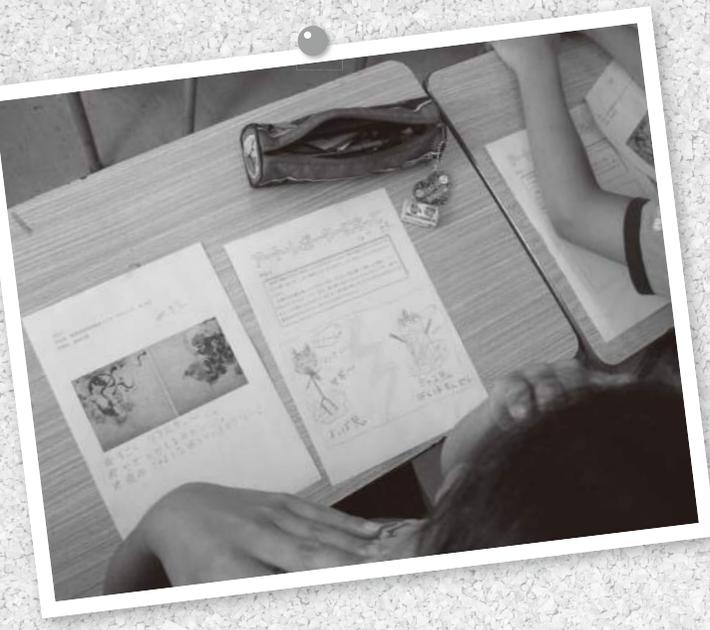
📌 表現の変化の理由という鑑賞のポイントを明確にすることで、ピカソの表現への思いや願いにせまることができるようにする。



📌 ピカソの簡単な遍歴を視覚的にとらえられるように、大型テレビとパソコンなどの視聴覚機器を利用する。

画風の移り変わり

ピカソの簡単な画風の移り変わりを大まかに鑑賞し、新しい表現に挑戦する姿勢を感じ取ります。



小学校・第6学年

⑧美術作品の鑑賞

アートレポーターになって

2時間

⇒ 題材の目標

- 美術作品に表されている形や色から、よさや面白さを感じ、作品の内容や作者の表現の意図など、考えたことを文章にまとめ、友だちと伝え合い、共感したり違いに気付いたりすることを楽しむ。

題材の評価規準

ア 造形への関心・意欲・態度	エ 鑑賞の能力
○美術作品を見て、自分が読みとったり考えたりした内容を文章にまとめ、友だちと伝え合い、共感したり違いに気付いたりすることをしようとしている。	○美術作品に表されている形や色から、よさや面白さを感じ、作品の内容や作者の表現の意図などを考えようとしている。

〔共通事項〕の内容

- ア 自分で考えたり、友だちと伝え合ったりすることを通して、形や色、動きや奥行きなどを造形的な特徴をとらえること。
- イ 4枚の作品の形や色などの造形的な特徴を基に自分のイメージをもつこと。

準備

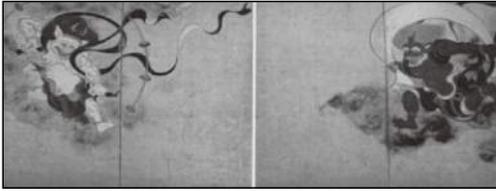
教師：美術作品の複製画、鑑賞ワークシート、実物投影機

⇒ 題材の展開

●主な学習活動 ○子どもたちの活動例	□指導上の留意点 □評価の観点
<p>●作品のレポートを聞き、どんな作品か想像し、簡単にスケッチする。(12分×4回=48分)</p> <p>○お互いにスケッチを事物投影機で見せ合うことで、共感し合い、違いを楽しんでいる。</p> <p>○違いを指摘し合うことで、互いのイメージの違いを感じとり、作品を見てみたいという関心が高まっている。</p>	<p>□形、色、動きに注目し、まず文から事実をとらえようとしているか、声をかける。</p> <p>□自分が感じたことを友だちと発表し合い、多様な見方に気づいたり、共感し合ったりすることをしようとしている。(ア)</p>

二人は遊んでる？
喧嘩している？

雷神がひらひらしているものをもっ
ているのは、何かを表している？



雲の色が左右違う

笑っているのか怒っ
ているかわからない。

二人はたまたま会って、白い方が仲
良くなりたくて、プレーキをかけ
て、緑っぽい方は近づいてきて…。

目線が下なのは下界を見ている？

●自分の気に入った作品のレポートを書いて、みんなにレポートする。(42分)

(鑑賞作品は、教科書に掲載されている「風神雷神図屏風」「無題 キース・ヘリング」「窓からみたパリ」「神奈川沖浪裏」の4作品を選出)



□気が付いたことを鑑賞シートに書込み、お互いに気が付いたことや感じたことを発表し合う。

□美術作品に表されている形や色、動きをとらえ、よさや面白さを感じ取っている。(エ)

□自分が感じたことを友だちと発表し合い、多様な見方に気づいたり、共感し合ったりすることを楽しんでいる。(ア)

□もう一度お気に入りの一枚をじっくり見る時間をとる。

□自分の気に入った作品の内容や作者の表現の意図などを考えて、自分なりの言葉でレポートにまとめている。(エ)

□自分の気に入った作品について書いたレポートをみんなで発表し合い、共感したり違いに気付いたりすることを楽しもうとしている。(ア)



子どものレポートから…

◆風神雷神屏風図

二人とも元気に遊んでいるようでした。雲に乗っているというより、雲がまわりついているようです。鬼のようにも見えるけど、よく見るとヤギやカエルにも見えます。すごく筋肉があるので、特訓したのかなとも思いました。かみが金色なので、このころの流行だったのかなとも思いました。

◆無題 キース・ヘリング

巨大な建物前の、緑のステージで上から薄い日のスポットライトを浴びて真っ赤に燃えるうさぎのような生き物が踊っているみたい。でも、見てくれる人はあんまりいないみたい。それでも、腕を曲げて、この生き物は張り切っている様子。ところがこの生き物はダンスもいけど、泳ぐのも大好き見たい。見方を変えると泳ぎにも見える、ワニのような生き物が今にもクロールで空へと泳ぎ出そうとしている様子。泳

ぎに燃えるこの生き物は、空どころか宇宙を目指して猛特訓中の様子。何人もの人が自分のことを見てくれるはず！と思っているみたい。

◆窓からみえるパリ

とても不思議な世界だ。空が色々な色で染まってどこかの違う世界のような。町の様子はほとんど白に染まっている。この世界では、タワーがある。たぶんそのタワーがこの世界の中央だろうかと思は思う。

◆神奈川沖浪裏

広い海、あれるる波、神が人に災いを与えているようです。これは夕方でしょうか。外がオレンジに光っています。船にいる人たちはどうなってしまうのでしょうか。波に吞まれてしまうかもしれません。日本一の富士山を描くことで大きさ、恐ろしさがより引き立っています。江戸の人たちは何をしてしまったのでしょうか。神は何を怒っているのか謎に包まれています。

学校の中、〇〇みつけた!! パシャ!! 2時間

⇒ 題材の目標

- 日常生活の中から見付けた光の当たり方や、角度によって違って見える様々な形について、自分や友だちの発見を共有し、発想や表現のよさや面白さを感じたり、話し合ったりする。

題材の評価規準

ア 造形への関心・意欲・態度	エ 鑑賞の能力
○生活の中で、光の当たり方や見方を変えてできる形や色に着目してそれを楽しむとともに大切にしようとしている。	○自分や友だちの発見を共有し、発想や表現のよさや面白さを感じたり、話し合ったりしている。

展開の工夫

この題材は、いつも見ている何げない風景に存在する様々な形や色が光の当たり方や角度、自然の動きで偶然にできているものを発見して「顔」や「何かの生き物」、「ロボット」のように見立てることができる瞬間があるかもしれないと投げかける。題材を展開していく過程で、子どもたちの「見え方」に対しての興味や発想をとらえ、友だちとのかわり合いやグループ活動の話し合いによる言語活動の共有化によって能動的な感覚が生まれ、それを見とって評価していくことが大切である。

〔共通事項〕の内容

自分の感覚やグループでの活動を通して、生活の中で見つけた形や色、動き、面白い形などの造形的な特徴をとらえ、それを基に自分のイメージをもつ。

準備

児童：筆記用具
 教師：デジタルカメラ、パソコン、プリンター、ラミネート、鑑賞カード

環境設定／鑑賞対象の準備・提示の方法／視覚教材教具など

デジタルカメラを用意し、グループで活動しながら普段見過ごしてしまうような校舎内外の中にあるものの形や自然現象、美しい色に着目し、面白い形に見えるものを撮影する。時間を決めて、撮影してくる。

普段見慣れている植物や生き物などの動きにも着目できるようにする。撮影した写真をクラスで提示する。

友だちとのコミュニケーションによって生まれる新しい発見や共感、認め合いによる高まる感性。



🔄 題材の展開

🎯 主な学習活動 👤 子どもたちの活動例

📌 指導上の留意点 📊 評価の観点

学校の中や校庭などで、よく見ると面白い形や色をしたものがあるかもしれないね。光の当たり方や自然の草花によっては「顔」や「虫」、「ロボット」に見えるものがあるかもしれないよ。

🎯 グループで校舎内の面白い光による変化、自然のものや形に着目してデジタルカメラでとる。(導入5分、展開35分)

👤 海汽車

「光と影で光の方が海に見えて、水道の蛇口が汽車に見える。」



👤 長男・次男・三男 (次次男)

「三本の細い木がならんで、大、中、並んでいるから兄弟のように見えた。」

🎯 グループや個人で撮影してきた面白い形や自然や光による変化に着目した写真を見合う。(10分)

🎯 気に入った写真ごとにグループで集まり、さらに相互鑑賞して深める。(35分)

👤 同じ選んだ写真でもそれぞれの感じ方が違う。



👤 グループの話し合いを全体に伝える。

👤 それぞれの席にもどり、グループでの話し合いをもとに写真の題名を付ける。

📌 校内や校舎から見える環境空間の面白い瞬間をデジタルカメラで写すように指導する。ただ、写すのではなく角度や方向も考えるようにする。角度や光の当たり方、風による瞬間的な動きも見るように話す。

📌 生活の中で、光の当たり方や見方を変えてできる形や色に着目してそれを楽しむとともに、大切にしようとしている。(ア)

このシャッターは「顔」に見えるよ。



📌 生活の中で見ている何気ない風景や面白い形を、見方を変えて新しい発想でイメージしようとしている。(イ)

📌 デジタルカメラを使って様々な角度や距離感を意識し、対象物の見え方を考えている。(ウ)

📌 生活の中にある何げないものなのに、なぜ面白い形なのか発表できるようにする。



📌 自分や友だちの発見を共有し、発想や表現のよさや面白さを感じたり、話し合ったりしている。(エ)

📌 話し合っていく中で、自分のお気に入りの理由も記入させるようにする。

📌 それぞれの見方や感じ方を大切にするようにし、どんな感想が出たかグループの代表が全体に向けて発表する。

四角い風景からはじまる物語

3時間

⇒ 題材の目標

- 身近な対象や風景を、構図やカメラアングルなどを工夫して撮影し、イメージと造形的な美しさ面白さの双方から作品を選び、タイトルを付ける。

題材の評価規準

ア 造形への関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能
○身近な対象がもつ造形的な面白さや美しさを発見し、写真の構想を練ろうとしている。	○感性や想像力を働かせて、対象から感じ取った美しさや造形的な面白さなどから、表現の構想を練っている。	○感性や想像力を働かせて、対象から感じ取った美しさや造形的な面白さが強調されるよう、アングルや光線、陰影などを工夫して写真を撮っている。

[共通事項]の内容

- ア 身近な対象や風景を切り取り方や視点を変えることで鮮明になる形や色彩、質感、光や影などの性質や、それらがもたらす感情に気づき効果を生かした写真を撮る。
- イ 写真に表現された形や色彩、質感、光や影などの性質や、それらがもたらす感情を理解し感じ取ったイメージを基に、タイトルを付けたり物語をつくったりする。

準備

教師：デジタルカメラ（4人班に1台程度）

環境設定／鑑賞対象の準備・提示の方法／視覚教材教具など

- 導入や発表場面ではテレビにつなぐなど、全員で共有する工夫をする。

⇒ 題材の展開

●主な学習活動 ○子どもたちの活動例	□指導上の留意点 □評価の観点
●作品例を鑑賞し写真の楽しさに気付く。(20分)	□写真による表現の可能性に気付かせる。
学校の中で撮った写真です。これは何でしょう？どこで撮ったかわかりますか？	
○身近な場所で撮られた写真をよく観て、どのような美しさや面白さがあるか発見したことを発表する。	□写真による表現に関心を持ち、撮り方を工夫したり、ねらいをはっきりさせたりすることで身近な対象や風景が新しい表情を見せることに興味を示している。(ア)

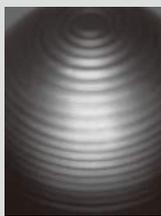
どんな美しさや面白さに気づいて撮ったものですか？

「美しいもの」を捜すのではなく、身近なものから「美しさ」「面白さ」を発見してみましょう。

①～④にタイトルをつけてみましょう。



①影の面白さ



②アングルの工夫



③奥行き一点透視図法



④シンメトリーの面白さ

●デジタルカメラの基本的な操作方法とカメラアングルなどについて操作を通して知る。(20分)

●構内撮影会の行動範囲・時程・約束などを確認する。(10分)

●校内写真撮影会を行う(4人グループ)。(50分)

○安全に配慮し工夫して写真を撮る(次の時間までにデータをコンタクトシートに印刷しておく)。

●写真鑑賞会を行う。(15分)

□実際に操作させてピントを合わせ、アップとロングの変え方、アングルの違いなどに気付かせる。

□安全に配慮しながら撮影を楽しんでいる。(ア)

□感じた美しさ面白さがより明確に伝わるように工夫して撮影している。(イ・ウ)

□イメージと造形的な美しさや面白さ二つの観点から写真を選ばせる。

写真の中から、美しさや造形的な面白さがよく伝わるものを選び、どのような美しさや面白さなのか話し合しましょう。

この写真が本の表紙だとして、本のタイトルを付けてみましょう。

アングルが新鮮



「空へのトンネル」

見立て



「犬と猫」

一点透視に気づく



「未来へ」

アングルと一点透視



「死ぬまで生きる」

影の面白さ



「グランドわん」

●選んだ写真にタイトルを付ける。(15分)

●クラスで発表し合い、楽しむ。(20分)

□イメージを広げ、タイトルを考えている。(イ)

□1枚の写真について造形性とイメージの二つの観点から発表するようにさせる。



中学校・第2学年

⑪美術作品の鑑賞

作品に棲む生物たち

～鑑賞ヒエロニムス・ボス
「快樂の園」「最後の審判」より～

1時間

⇒ 題材の目標

- ヒエロニムス・ボスの描く不思議な生物に触れ、その造形的な面白さや工夫に気付くとともに、自分なりの解釈を加えて鑑賞を楽しむ。

題材の評価規準

ア 造形への関心・意欲・態度	エ 鑑賞の能力
<ul style="list-style-type: none"> ○ボスの描く不思議な生物に興味をもち、主体的に鑑賞をすすめ、自分なりの解釈を導き出そうとしている。 ○作品の全体に興味をもち、色彩や構図の工夫を感じ取ろうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○想像力を働かせ、ボスの描く不思議な生物の面白さや工夫などを感じ取り、見方を広げたり、考えを他の生徒と伝え合ったりしている。 ○作品の全体に興味をもち、色彩や構図の工夫を感じ取っている。

〔共通事項〕の内容

ボスの描く不思議な生物がもつ色彩や形の工夫に気付き、それらが生物の個性をどのように特徴付けているかを考える。

準備

生徒：筆記用具
教師：ボスの作品図版、鑑賞カード、実物投影器



環境設定／鑑賞対象の準備・提示の方法／視覚教材教具など

- 鑑賞カードを20種用意し、生徒の好みに合うものを選ばせた。
- 1年次に行った表現の題材での作品を提示して、学習を振り返られるようにした。
- 予備知識を与えずに、作品を切り取って見せることで、自由な解釈が成り立ちやすくした。
- 実物投影機を使って各グループの代表が鑑賞カードの発表を行い、生徒の考えを他グループと共有できるようにした。

⇒ 題材の展開

● 主な学習活動 ○ 子どもたちの活動例	□ 指導上の留意点 □ 評価の観点
<p>1年ほど前に取り組んだ題材を振り返り、そのときの気持ちを思い出してみましょう。 まだ人類が知らない生物を“発見”し、その“報告書”をつくったときの気持ちを。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ●中1A表現 (1) (3) において、“新種の生命”を制作した題材を振り返る。(5分) ○かつての自分たちが制作した作品を鑑賞する。 	<ul style="list-style-type: none"> □豊かな発想が見られる生徒作品を鑑賞させ、“新種の生命”を発想した時の楽しさを思い出させる。



中学校・第2・3学年

⑫表現から鑑賞

愉しむ鑑賞

1時間

⇒ 題材の目標

○授業で制作した作品の、自らの工夫やデザインを、実際に使用しながら評価し、愉しみながら鑑賞しよう。

題材の評価規準

ア 造形への関心・意欲・態度	エ 鑑賞の能力
○暮らしの中に生きる美術の働きに興味をもち、自分の作品や友だちの作品から、使用することを通して、デザインの意図や工夫が効果的に形に表れているか感じたり、制作した作品を使用したりすることに味わいや愉しみを感じようとしている。	○目的や機能との調和のとれた洗練されたデザインに興味をもち、作者の制作意図を使用しながら感じ取ったり味わったりしながら、生活を美しく豊かにする美術の働きについて理解する。

〔共通事項〕の内容

- 材料のもつ形や色、材質などを理解し、使う人の立場に立ってイメージを膨らませる。
- 制作した作品を実際に使用することで、工業製品との違いや手づくりの作品のもつ味わいや使用感を愉しむ。

準備

教科単独の設定では、陶芸：お湯、洗浄用品 木工芸：用途に合わせた食品 どちらもワークシート
家庭科×美術科の設定では、ワークシート、ランチョンマット制作など援助

環境設定

効果的な場の設定としては、家庭科との共同設定があげられる。「地域の方を招いて食事会」など、家庭科の学習内容による。教科間で打ち合わせることが重要。

⇒ 題材の展開

<input checked="" type="checkbox"/> 主な学習活動 <input type="checkbox"/> 子どもたちの活動例	<input type="checkbox"/> 指導上の留意点 <input type="checkbox"/> 評価の観点
制作後から開始	一人ひとり完成させる。
<div style="border: 1px solid gray; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">みなさんの手づくり作品を味わい、使うことを愉しんでみましょう。</div>	
<input checked="" type="checkbox"/> ワークシートの、自分の狙いが実現したかを問う質問に、ねらいと、実際に使ってみた感想を書き込む。 (15分)	<input type="checkbox"/> 衛生面やアレルギーなどに十分注意しながら事前準備する。 <input type="checkbox"/> 使いながら、自らのデザインのねらいや願いを、使用感を通して味わっている。(ア)



❑狙いが外れることも一つの学びだと気付かせる。

❑手触りや口当たりなどの発問について、体験を通して体で感じながら鑑賞を進めている。(工)

発問内容

- ・握り心地さわり心地
- ・使い心地・自分との相性

デザインの美しいもの、使いやすいもの、両方のバランスの取れているものを選んで鑑賞しましょう。

●友だちの作品を鑑賞して回り、実際に手に取り使用しながら作品を見つめる。(20分)



友だちの作品をじっくり鑑賞しています。

❑自分の思う、すぐれた作品と自分の作品の違いに気付かせ、作者の熱意やねらい、工夫に気付かせる。もてなし会の場合は、インタビューしたり相手のことをよく考えられたりした班と比較してみる。



家庭科のおもてなし会では、メニューの工夫も盛り付けも美しさにこだわりました。ランチョンマットもお皿を生かしたデザインにしました。

家庭でみんなに使ってもらい、インタビューしてきましょう。

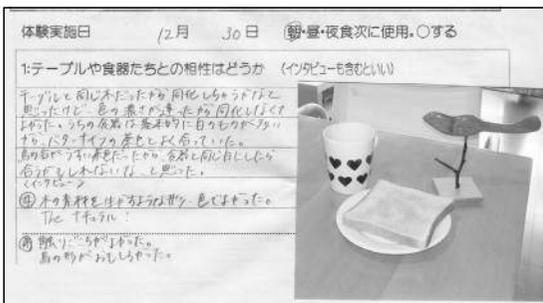
●発問にしたがって自分の制作を振り返る。(10分)

発問内容

- ・もっと、どうすればよかったか
- ・改善するとしたらどこか

●自宅に持ち帰り、家族に使用してもらった感想をインタビューしてくる。インタビューを通して、自分では気付かなかったよい点や頑張った点、努力を要する点に気付くとともに、工業製品との違いを見付ける。

せっかクトリのデザインなので、枝にとまるようにセッティングしました。



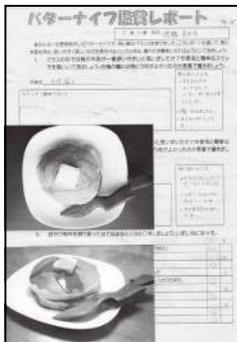
❑「どんな場を利用すると味わいが変わるか」などと発問し、鑑賞の機会を設けさせる。

保護者とのつながり

生徒が記入している学習内容が読めるように、同じワークシートに「保護者からのコメント」欄を設け、制作の苦労や自分を振り返る姿を作品と同時に、保護者に鑑賞してもらうようにします。

心で感じる鑑賞活動

工芸ならではの“使う愉しみ”は、機会をつくることで、初めて感じる生徒も多くいます。保護者にとっても、わが子の作品で食卓を囲む喜びは大きく、コメントには数多くの感動が見られます。使う機会を教師側でしくむとり組みは、より深い学びと、つくる・使う愉しみに気付かせる、心で感じる鑑賞活動につながります。



❑保護者コメントに返答して返却する。



鑑賞ジャンプ力を どうひきだすか

[東京都美術館]

稲庭 彩和子

・小学校2年生の鑑賞体験から

絵は目だけで見るのではなく、

耳や はなでもみると、びじゅつかんの たのしさが わかると おもいます。

でも たのしいといっても、わらったり、あそんだりしたときの たのしさではなく、

びじゅつかんだけの たのしさです。

わたしが びじゅつかんでやってみたいことは、てんじされている絵のせかいに はいってみたいです。

これは小学2年生の女の子の美術館体験の感想です。美術館での鑑賞体験を自分の言葉で体験に基づいて書いているのが印象的です。五感を働かせ、全身で体験をしている心の動きがわかります。このような身体感覚を伴ったり、自分が感じたことを過去の経験に照らし合わせたりしながら意味付けられる深い鑑賞体験は、どのよう

にして生まれるのでしょうか。その一つが、美術館を上手に活用することです。美術館の展示室は鑑賞が深まるよう緻密にデザインされていて、身体ごと鑑賞空間に入るため集中しやすく、子どもたちは「見て感じる体験」を通して潜在的な鑑賞力を発揮しやすくなるのです。

・鑑賞ジャンプ力を引き出す環境設定

子どもたちには、日常と非日常の作品世界を行き来する「鑑賞ジャンプ力」とでもいうような、しなやかな鑑賞能力があります。既成概念にとらわれがちな大人がつい見逃すようなことに気付き、絵の世界に入り込んで発想することができます。実はどの子も秘めている「鑑賞ジャンプ力」ですが、その力を引き出すポイントがいく

つかあります。一つめは、美術館体験当日にむけての事前の準備、二つめは、鑑賞をする活動のプロセス中に、一人で鑑賞する時間と、友だち同士の共同的な学びが生まれる鑑賞の時間の両方を取り入れることです。

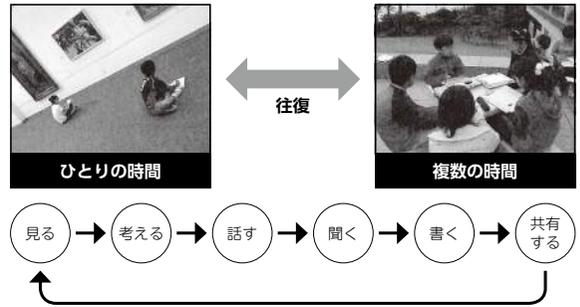
・当日の集中力を高める事前の準備

暗い展示室に、見慣れない作品が並んでいる美術館。子どもだけでなく、久しぶりの美術館は大人でも少し緊張するのではないのでしょうか。本物の作品にはアーティストのエネルギーが詰まっていて、あたかも人と出会うように、向かい合う人を緊張させる力があります。心地よい緊張感と集中力をもって鑑賞体験をするためには、

美術館に出かける日のことを、少し前から想像し始めると、子どもたちの緊張感は「ドキドキワクワク」とした期待につながりやすくなります。例えば、事前に作品カードなどを使って活動をしておけば、当日は「あの絵を見たい」と、より具体的に「私」に取っての鑑賞目的の意味付けができ、学びの心の準備ができている状態にな

ります。そのためには、例えば次のような事が効果的です。

- 1) 教室に展示会のポスターやチラシを貼り、事前に子どもたちが美術館での体験を想像する機会をつくる。
- 2) 美術館に相談し、貸出し用の図版データや図録など、貸出し教材があれば借りる。事前に自分の好きな作品やいちばん見たい作品を選ぶなど、本物の作品を見に行くことを意識的に楽しみにする。
- 3) 美術館のルールについて確認する。



私は美術館にいったことはあるけれど、

あまり良い印象が残っているわけでもなく、今日この美術館に来ました。

そして、今日は美術館がとってもとっても好きになりました。

今度、家族みんなに「美術館でこんなに心がぼかぼかして、たとえ相手にあっていなくても、話をしていなくても相手がどのような気持ちでいたかがわかる」ってことを教えてあげたい。

これは小学4年生の女の子の感想です。以前の美術館体験の印象はあまり良くなかったようですが、この感想を書いた来館時には、事前に作品カードを鑑賞し、自分が見たい作品を一つ決めてから来館をしました。自分の中に作品を見る動機があり、作品と出会う心の準備ができていたため、とてもスムーズに作品の世界に入り込めたようです。鑑賞ジャンプ力を最大に引き出す「学校と美術館の連携」を事前と当日と事後の三つのステップで考えるならば、事前4：当日4：事後2ぐらいの力点のバランスで最大の効果が出ることが多いようです。このため、美術館訪問の際には、ぜひ事前に美術館に連絡を入れ、鑑賞ジャンプ力を引き出す鑑賞体験の準備を事前にしてください。



・共同的な学びが鑑賞を深める

鑑賞は「いま自分はこう感じている」と意識的にキャッチすることから始まります。そして、自分の感じ方に加えて、他の人の視点が加わると、鑑賞がさらに深まっていきます。例えば10人で鑑賞をすると、キャッチできる情報が増え、見ている範囲が広くなり、その分だけ判断根拠が正確になり、客観的視点をもつことにもつながります。ここで大切なのは、友だち同士の意見を受け止め合う、他者を受け止める行為です。人それぞれに多様な答えが生まれるのが作品鑑賞です。先生側が答えをもって、それを当てさせるのではなく、それぞれ考えたことがすべて受け止められ、共有されることで、その絵の本質に迫ることもしばしばあります。子どもたちは他の人の意見を聞くことで、視野を広げ、鑑賞の視点を深めるのです。例えば、事前の授業で好きな絵を作品カードで選び、その理由を発表し合うと、美術館当日も、それぞれが意見をいやすくなる土壌が生まれま

す。事前の授業や当日の活動の中での少しの工夫が大きな効果を生みますので、事前の準備や共同の鑑賞をぜひ取り入れてみてください。



美術館と鑑賞活動

【川崎市立岡本太郎美術館】

大高 修

1. 作品鑑賞

(1) 学校での作品鑑賞

学校の学習活動で鑑賞活動を行うことは、他の活動と比べハードルが高いと感じられます。

題材主義というわけではないですが、造形表現活動については、教科書で作品と共に紹介され、教師も児童も活動がイメージし易くなっています。

しかし、鑑賞活動（特に小学校）では、“誰の”“どのような”作品“を取り上げれば良いかわからず、児童同士の作品鑑賞で終わってしまうことが多いのではないのでしょうか。

(2) 美術作品の鑑賞

実際の授業で美術作品を取り上げる場合、教材研究に大変な時間と労力を必要とします。実態や活動のねらいに合わせて作品を選び、その作品や作家についての情報を集め題材化すると大変な作業に感じてしまいます。しかし、子どもたちが感性を働かせる鑑賞活動では、それほど作家や作品について話すことはありません。子どもたちの前に作品があり、気付いたことを自由に話すことから始まり、感じたことの根拠を作品の表現から発見していく、実際、美術館でも子どもたちの発言中心で鑑賞を進めています。。

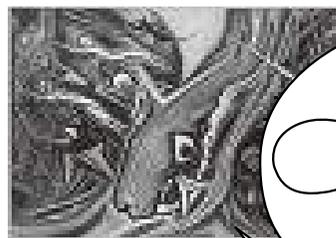
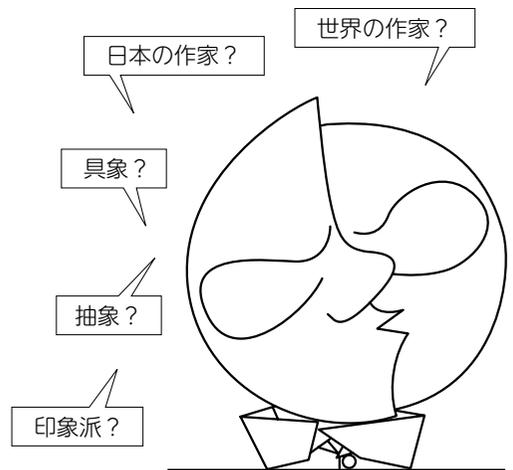
2. 美術館との連携

(1) 美術館の活用

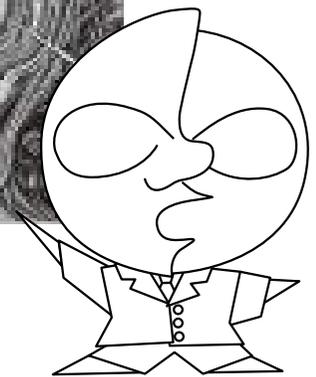
活動に合わせて美術館を選ぶのも良いですが、近くの美術館を活用する方が、打ち合わせをするにも、実際に見に行くにも便利だと思います。

岡本太郎美術館では、教育プログラムをつくっています。そういったものを活用する、または美術館と活動内容を相談することで、教材研究に膨大な時間をかけずに鑑賞活動が行えます。

美術館に直接見学に来ていただいた場合は、美術館の職員が各クラスに付いて一緒に作品を楽しんでいます。職員が先導して感想交流を行うことで、どのように鑑賞を楽しめばよ



岡本太郎《森の掟》



いかが伝わるようにしています。また場合によっては、学校へうかがって教室で鑑賞活動も行っています。

(2) 美術館教材

美術館では、教育プログラムの他に、鑑賞教材をつくっています。その教材を活用していただくと、手軽に楽しい鑑賞活動が行えます。

アートカードなどで遊んでいるうちに、自然と作品が印象に残り、次第に気になるものや、好きなものが出てきます。

実際に美術館を見学する場合でも、事前に教材に触れていると、美術館で作品を見たときの関心がとても高くなります。

(3) 美術館での鑑賞と言語活動

何と言っても美術館での鑑賞の最大のメリットは本物を見ることができることです。岡本太郎美術館では岡本太郎の思いもあり、ほとんどの作品をケースやガラスの額に入れずにむき出しで展示しています。印刷物や映像ではわからない迫力を感じることができます。

鑑賞しながらの感想交流は作品を感じるということだけでなく、言語活動も活発になります。

みんなで一つの作品を見ながら感じたことを自由に話します。私は美術館で学校（特に小学校）対応しているとき、作品についてほとんど説明しません。作品の情報を先に話してしまうと、それが固定概念となって自由に感じる事ができなくなってしまいますからです。

子どもたちは好きなように感じたままを話していますが、作品から感じたことを話しているの、でたらめということはありません。どのような話でも、必ずその根拠が作品の中にあります。そんな感想交流を続けていると、子どもたちは気づいたこと、感じたことを話したくて仕方がないという感じになってきます。感じたことは全て正解なので、自信をもって話せます。

話したいこと、伝えたいことがあるから話す。聞く側も共感できたり、意外な発見だったり、面白いので聞こうとします。とても自然な言語活動だと感じます。



岡本太郎《晴》



上・下
6年生文字作品



3. 鑑賞と造形表現活動

鑑賞することで、形や色などからイメージが刺激されます。自分にとってどのような形や色が目を引くのか、またそこから何を感じるのか、自分自身の感性と向き合うことになります。そして、何より、すごい作品を見ると“かいてみたい”“つくってみたい”という気持ちになります。

岡本太郎の作品は、鮮やかで激しい色使いや抽象とも具象とも言えない不思議な表現が特長です。その岡本の表現に刺激されて制作すると、既成概念にとらわれない自由な作品になります。

鑑賞することで、見た作品から形や色から自分のイメージをもつことができ、そのもったイメージを自分の表現に活かすことで、より表現したいものが形になった作品になると思います。



6年生マスク



6年生
12歳の自分



おわりに・・・感じて動く鑑賞

横浜鑑賞研究会

すでに、小・中学校で完全実施されている新学習指導要領（図画工作科・美術科）においては、鑑賞の学習活動が「生きる力」に直結するものとして位置付けられ、一層重視されています。この「鑑賞の重視」の方向性は実に20年来に渡って訴え続けられていることですが、なかなか達成されないまま今日に至っています。そうした状況に対して、対話型（対話による）鑑賞といった美術館との連携などによって鑑賞教育を積極的に普及していこうというムーブメントも顕著ですが、全国的な調査では、小・中学校の教育現場が授業における鑑賞の学習に消極的であるとの結果が示されているように、まだまだ鑑賞の授業を実践することに抵抗を感じている先生方が多いようです。

横浜鑑賞研究会ではそうした状況を鑑みて、鑑賞の学習においては、子どもの能動的な「活動化」、「表現との

一体化」が促されるべきだと考えました。そしてそれを〈感じて・動く〉というテーマに表現し、『子どもたちのすぐそばにある』ような、あるいは『先生方が意義あるものとして実感しながら授業として取り組むことのできる』ような鑑賞の学習題材を提案しました。もちろんこのことは、学習指導要領において重視されている「鑑賞の独立」や「学校と美術館の連携」を否定するものではなく、むしろそうした命題に対して、私たちが日々目に行っている子どもの姿から具体的にこたえるものだと考えています。

下の黒板をご覧ください。私たち研究会のメンバーが感じている、鑑賞の授業の“よさ”や“面白さ”です。みなさんも、鑑賞の授業を通して、子どもの“よさ”や“面白さ”に出会ってみませんか？

実践事例のメンバーから『鑑賞の授業へのお誘い』

目を輝かせて“見る”子どもたち、
そんな姿に教師も
モチベーションアップ!!

鑑賞はすべての教科学習の
礎となります。

鑑賞する目が育つと
教室で交わされる言葉が
変わりますよ！

毎日の生活から見える
楽しいな!!と思う瞬間を見つけて。

創ったら、じっくり愉しもう！
手づくりの良さを知らせよう。

目にとめた形、色、行為…
すべて鑑賞!!

感じたことを言葉や形にして友だちと交流しているいま、
子どもたちの感性がみががれる。

鑑賞は、教師が子どもの思いに
共感することからはじまります。

感じて撮って観て撮って！
感じて観て物語る。

子どものやわらかな感じ方を
一緒に楽しめるのが
楽しいですよ。

心がときめく瞬間（とき）、
ちがいを感ずる瞬間（とき）!!

感じたことをすぐ伝え合える。
鑑賞の授業の面白さです。

日文の〈図画工作〉書籍シリーズ

新刊



楽しい図画工作

授業のつくり方
低学年編・中学年編・高学年編

編著 福本謹一／山田芳明
[低] 定価 2,100円 (本体2,000円+税5%)
B5判 112頁 ISBN978-4-536-60050-7
[中] 定価 2,100円 (本体2,000円+税5%)
B5判 120頁 ISBN978-4-536-60051-4
[高] 定価 2,100円 (本体2,000円+税5%)
B5判 144頁 ISBN978-4-536-60052-1

新刊



造形教育の教材と授業づくり

編著 辻泰秀
定価 2,100円 (本体2,000円+税5%)
B5判 232頁 ISBN978-4-536-60056-9

増刷



アートフル 図工の授業

子どもをひらく題材ノート

著 内野務／中村隆介
定価 2,625円 (本体2,500円+税5%)
A4判 112頁 ISBN978-4-536-60047-7

発売中



私がつくる図画工作科の授業 ふぞろいな学習指導案

編著 岩崎由紀夫／阿部宏行
定価 2,100円 (本体2,000円+税5%)
B5判 130頁 ISBN978-4-536-60042-2

新発売

国宝や名品、名画の数々を電子黒板で。



提示型デジタル教材

みる美術

日本美術 名品コレクション 編

教科書に掲載される、東京国立博物館をはじめとした国宝や重文など、名品・名画を300点収録。

西洋美術 フランス国立美術館連合 編

教科書に掲載される、ルーヴルやオルセーなどフランスの美術館が誇る名画を300点収録。

■各編(校内フリーライセンス用)

価格**63,000**円(本体60,000円+税5%)

■2編セット(校内フリーライセンス用) ※セットにてご注文の場合

価格**105,000**円(本体100,000円+税5%)

■収録作品・作家リストはWebで!

みる美術

検索

■おもな機能

拡大

高精細デジタル画像で細部まで美しい!



比較

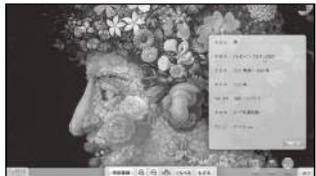
作品を並べて配置し、新たな発見ができる!



作品情報

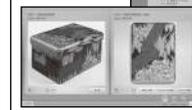
指導に役立つ!

(作品解説PDFデータも添付)



比較のくふう

▶作品の大きさを比較



◀別アングルを同時に鑑賞(一部作品)

マイコレクション

生徒作品の画像を登録でき、拡大、比較機能などもご使用いただけます。

この他にも、ブックマークなど便利な機能が搭載されています。

■Facebookページ

<http://www.facebook.com/mirubijyutsu>



書籍は、書店、ブックサービスでお求めください。
ソフトウェアは、お近くの学校出入りの販売代理店でお求めください。
※商品のお問い合わせは、お手数ですが、裏面所在地より小社大阪本社業務部へお願い致します。



感じて動く —鑑賞の活動化—

CD 33188

日文教育資料 [図画工作・美術]

平成25年(2013年)4月1日発行

編集・発行人 佐々木秀樹

本書の無断転載・複製を禁じます。

発行所 **日本文教出版 株式会社**
<http://www.nichibun-g.co.jp/>

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16
 TEL: 03-3389-4611 FAX: 03-3389-4618

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
 TEL: 06-6692-1261 FAX: 06-6606-5171